Hijicho
大阪市立大学新聞

2014.1.8
第24号

新年あけましておめでとうございます。
本年もより豊かな情報をお届けするため精一杯頑張りますので、
大阪市立大学新聞 Hijichoをよろしくお願いします。

ニュース

2014年市大カルテットの正体を暴く
～新四者協執行部～ ▶06面
自転車事故に用心を ▶08面

コラム

夢なき者に理想なし、
理想なき者に計画なし ▶02面
教育としての学力テスト結果公表 ▶05面
大阪歴史探訪第二回
大阪城～陸軍用地から公園へ～ ▶08面

その他

おもろい学生おりまっせ！
第11回～市大クーポン・福田雄仁～ ▶04面

Hijichoは、大阪市立大学新聞の発行のみならず、ニュースサイト「Hijicho Web」(http://hijicho.com) も運営しています。Hijicho Webでは、記事を随時更新しているので、リアルタイムな情報を得ることが可能です。本紙の一部の記事は、その全文を掲載しておりませんが、Hijicho Webにアクセスしていただくと、全文を読むことができます。皆さん、ぜひとも「Hijicho Web」もあわせてご利用ください。

夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし

さて、2014年である。希望の一年が始まった。この一年をどのようにするかは一人一人の努力次第である。そのためには、日々を惰性で過ごすのではなくはっきりとした理想のビジョンを持って生活していくことが肝要だ。そしてそれは人間だけにとどまらず、「大学」にも当てはまることだろう。

今回Hijichoでは、年始めということで2014年にとらわれず大阪市立大学の未来全体を見据え、どのような市大が便利だろうかという「大阪市立大学の理想図」を考えてみた。この記事を読みながらみなさんにとって理想のキャンパスライフを一緒に考えてみてほしい。

理想のキャンパス図

まず理想のキャンパス図へ、読者の皆さんをご招待しよう。杉本キャンパスをさらに拡張し、学術総合情報センターを中心に円を描いたようなキャンパスにするのはどうだろう。現在のキャンパスは、少し手狭な感もあるし、旧教養地区と本館地区とで分断されているようにも感じられる。そこで、学情を中心に円を描いたようなキャンパスにすれば、キャンパスとしての一体感を生み出せる。また、学生は学情を利用することが多いので、学情が中心にあれば、学部棟やBOX棟から学情へ、学情から学部棟やBOX棟へというような移動は便利になるだろう。

その一方、キャンパス内を、春は桜、夏は向日葵、秋は紅葉といったような四季折々の植物が咲き乱れるようにするのはどうだろう。現在のキャンパスでも、木々は割りと多いが、さらに植物豊かな環境にし、休憩所やベンチなどを設置すれば、学生や教職員のみならず、地域の人々も来てやすらげるような憩いの場になるだろう。このようにして市大は真に地域に根ざした大学へと進化を遂げるのだ。

理想の学内のあり方

ここでは学内における現状の不満から、理想の糸口を掴んだ。学生諸君が不満を抱くものの一つとして、駐輪有料化問題がある。2011年7月に突如大学が学内駐輪有料化を宣言し、学生たちに大きな波紋を広げ、憤りを与えた。大阪市立大学新聞Hijichoでも度々取り上げたが、大学は依然として態度を変えない。大学によると、学生から徴収した1000円は主に自転車整備士の人件費に充てられているという。(http://hijicho.com/?p=814)しかしこのような状況はそう長く続かないであろう。将来的には学敷地の拡大化と自転車整備用ロボット（通称：チャリロボ）の導入によって、学内の自転車は綺麗に整備されるのだ。そもそも自転車に替わる新たな乗り物が主流になっているかもしれないが（笑）

チャリロボの他にも学内にはロボットが点在し、掃除をしたり、話し相手になってくれ、学内に癒やしを与えてくれるであろう。

また学内には大型書店を誘致し、いつでも本が手に入れられる状況になってほしいと切に願う。現在は大学生協の書店が申し訳程度にあり、読者諸君も欲しいと思った本が置いていなかったという経験が一度はあるのではないだろうか。このような状況は打破しなければならない。

本学の食堂はとてもじゃないが規模が小さく、お昼ごはん時の混雑っぷりを知っている者は少し敬遠してしまっているかもしれない。外部からのレストランやカフェを誘致し、大型書店の建物に組み込むことができたら、本学学生のランチタイムはより優雅で有意義なものになるに違いない。既存の食堂はといえば、「安さ」に特化して頂きたい。例えば、他大学では「100円朝食」が導入されている。(参考URL：http://www.ritsumei.jp/news/detail_j/topics/12413/year/2013/publish/1)
ひもじい生活の昼食時は食堂で、気になるあの子とランチの時はレストランやカフェ等使い分けができると、市大生の学生生活がより輝かしいものになるだろう。

学生生活といえば、課外活動がその大半を占めるという人も少なくないだろう。課外活動では部室（以下、BOX）を持つ団体も多い。BOXに関しては電気容量が極小である問題や老朽化問題等現状の問題を上げるとキリがない。これらの問題を解決すべくBOX棟を一新し、オートロックやエレベーターといった最新の設備を整えた部室にするというのはどうだろうか。一方で既存のBOX棟を残しておきたいという声もあるだろう。各々の団体は長短はあれど歴史を持つが、歴史を刻んでいく学生達は一定期間経つと学内からいなくなる。（大抵の場合卒業という節目でいなくなる。）BOX棟は唯一その歴史を感じることができる貴重な建物ということもできよう。昔の外観や面影を残しつつも、現在活動している学生にとっては過ごしやすいBOXになることが理想だ！

大阪市立大学には経済学部棟や文学部棟など、老朽化の進んだ学部棟がいまだ存在している。しかし、最近建築されている理学部棟を例に、学部棟のリフォームや新しい立て直しが進むなど決して老朽化の問題を無視してはおらず日々変化している。学生にとって過ごしやすい生活を考えてくれているのだろう。将来的には老朽化の進んだ学部棟を中心に全ての学部棟が一新されると考えられる。その場合中で過ごす生徒や教授にとって快適であるのは勿論、折角なので一面ガラス張りにするなどして外から見てもクールな外観にするのが望ましい。「おしゃれで新しい」として名を馳せる大学に大阪市立大学の名が連なる未来を心待ちにしている。

理想の学問のあり方

将来的に進むこととしてノートの電子化もあげられる。現在プリントとして配布されているレジュメも紙の消費を憂い書籍の電子化が進む今、遠くない未来電子化の波に呑まれる。そうなるとよりノートの電子化が進むだろう。しかし、これは決して悪い話ではない。スマートフォンの普及などにより携帯はどんどんPCの性能に近くなっている。ノートを電子化するということはノートの共有・管理が容易になる、ルーズリーフや筆記用具を持ち歩く必要がなくなり鞄の中身の軽量化に繋がるという利点ばかりだ。(「パソコンでノートを取る時代」http://hijicho.com/?p=6339)

ただ、現在は殆どの学生がノートをアナログで取っている。まだノートを電子化するという考えは学生の中に浸透していないのであろう。しかし、非常に便利なノートの電子化は今後加速度的に進むというのが、ノートをPCで取っている筆者の考えである。

ノートの電子化が進み筆記用具を使わなくなれば、それに合わせて出席カードも変化すると考えらえる。筆記用具がいらず、また代筆も困難になる指紋認証になるのではないか、というのが筆者の意見だ。これにより授業をする教師側は一々筆跡を確認するという作業をしなくて済み、またPCで授業出席者の管理がしやすくなる。ただ、そうなったとしても「代筆」は無くならないと考えられる。指紋テープなどが流行り、友人の指紋を持ち歩く学生も出るかもしれない。教授と生徒のいたちごっこは互いを高め合いながらいつまでも続くだろう。

全ての授業が英語で行われるというのは、グローバル化を唱える大阪市立大学に在籍する以上、避けられない事態と考えられる。しかし、リスニング力・スピーキング力が弱いと言われる日本人には苦しい未来になるのは確かだ。けれど安心してほしい。日本の技術はどんどん進歩している。近い将来スマートフォンアプリなどで高性能自動翻訳機が登場し、英語の会話を日本語に翻訳してくれたり、また自分の日本語を意味の通じる英語の文章に変換してくれたりするようになるはずだ。ただ、そうなると様々な言語を習得する労力いらずで扱えるようになるが、日本人の外国語力がどんどん衰退していくのではないかという懸念も残される。

少人数で集まって意見を交わし合うというゼミの形態は今後も変化しないと考えられる。三商大討論会など大人数が集まってゼミの研究紹介なども継続されるだろう。加えてインターネットの普及やSkypeやLINE等ネットサービスの向上により、PCやスマートフォンを使って全国の同じ研究をしているゼミがより簡単により頻度を増してインターネットで意見を交わし合うと予想される。

理想の交通アクセス

まず、第一にJR阪和線杉本町駅に快速が停車するようになってほしい。以前Hijichoでは、「温故知新」というHijichoが誕生する60年以上前から発行されていた「市大新聞」の掲載記事を再掲載していくコーナーで、「『もっと便利にならないものか 大学までの交通機関』 温故知新 旧市大新聞を訪ねて vol.7」(http://hijicho.com/?p=13040) という記事を掲載した。この記事は、1956年 (昭和31年)に書かれたもので、杉本町駅に急行を停めて欲しいという、学生の切実な要望を載せたものだった。それから58年たった今も杉本町駅への快速停車は実現していない。もし念願の快速停車が実現すれば、天王寺駅からの所要時間は短縮され、アクセスはさらに便利になるはずだ。

その一方で、杉本キャンパスから地下鉄御堂筋線あびこ駅への無料送迎バスを出してほしい。以前Hijichoでは、「阪和線VS御堂筋線　仁義なき戦い〜速くて便利な最強路線はどっちか〜」(http://hijicho.com/?p=14447) という記事で、市大から天王寺、なんば、梅田の3大ターミナルへはどちらが速くて便利なのかという検証を行った。そこでは御堂筋線が3戦全勝に終わり利便性の高さを証明した。このように御堂筋線は大変便利なので、あびこ駅への無料送迎バスが運行されるようになれば、現在はキャンパスが近いという理由で杉本町駅を利用している学生も御堂筋線を利用するようになるだろう。また、現在あびこ駅から徒歩や自転車で通っている学生にとっても、速い上に、雨天時に濡れることもないバスは便利なはずだ。そして、御堂筋線の利用が増えれば、もしかすればJRも対抗目的で杉本町駅への快速停車も行うかもしれない。

編集後記

今回は、Hijichoが考える「大阪市立大学の理想図」を描いてみた。学情を中心に据えた自然豊かなキャンパス像や学部棟の一新、食堂の改善、大学へのアクセスの改善など、理想というものはあげればきりがない。実際、理想というのは、現在の大学に対する不満であったり、ここをこうすればもっとよくなるのにという希望であったりする。それが実現に移れば、私たちの大阪市立大学はきっとより便利に、より豊かになるはずだ。

みなさんは、どのような市大を理想としただろうか？私たちの理想図と重なる部分はあっただろうか。市大をよりよくするための理想が、理想で終わるのではなく、いつの日にか実現することを願っている。

石原奈甫美 (Hijicho)
鶴木貴詩 (Hijicho)
細原千尋 (Hijicho)

おもろい学生おりまっせ！　第11回～市大クーポン・福田雄仁～

読者の皆さんは「市大クーポン 」をご存じだろうか。この市大クーポンとは、杉本町やあびこといった市大周辺にある飲食店で使えるクーポンを主にTwitterを使って発信している団体である。今回の「おもがく！」では、市大クーポンの創始者の1人である商学部1回生の福田雄仁さんに迫った。

写真＝福田雄仁さん (筆者写す)

画像＝市大クーポンのTwitterアカウント（筆者写す）

きっかけは大学生活の盛り上げ

－市大クーポンの活動を始められたきっかけは？

きっかけとしてまず第一に挙げられるのは、大学生活を盛り上げるためですね。あとは僕は食べ歩きが趣味で、よく行くお店で使えるクーポンがあればいいなという思いもあり、有志を募って今年のから市大クーポンの活動を始めました。

せっかく市大に来ているのに、市大周辺の地域のことをあまり知らない人が多いのはもったいないと思うんですよね。この市大クーポンがきっかけで、多くの市大生が市大周辺の地域のことに興味を持ってくれることで、市大生と地域のお店の両方がwin-winな関係になればいいなと思っています。

－これまでの活動において苦労された点はありますか

市大クーポンは発足して半年ほどと、まだ活動歴が浅く、やはり発足当初はお店との契約を取ることにとても苦労しました。お店の側としても、実績のないところと契約を結ぶことに対して少し躊躇するみたいです。実際に営業活動をしてみると、お店によっては話を聞いてくれないところもあり、直接お店の方に会って話すという段階に進むまでが大変でしたね。粘り強く交渉を続けたこともありました。

－営業において工夫されている点や気を付けている点はありますか？

お互いにメリットがあり、win-winな関係を築くことができるという点を強調して、お店の方に話すようにしています。なるべくお店に利益が出るように配慮しています。あとは私たちが学生という立場も強調しています。これまでに実際に契約をとれたのは6店舗ですが、実際に営業に回った店舗は数十店舗はあります。これからもがんばってどんどんクーポン掲載店舗数を増やしていきたいですね。

目標はあびこ、杉本町の制覇！

－今後の目標・展望はありますか？

クーポン掲載店舗数を増やして、最終的にはあびこや杉本町のお店を制覇したいですね。

あと、市大クーポンは今のところTwitterを中心に情報発信をしているのですが、もっとほかの告知方法を考えて様々な形で市大クーポンの情報発信をできたらいいなと思っています。

－趣味はなんですか？

市大クーポンを始めるきっかけにもなった食べ歩きとゴルフですね。実はゴルフ部にも入っていて週一回程度打ちっぱなしなどに行って練習をしています。

－これまでの大学生活で力を入れたことは？

銀杏祭とサークル活動ですね。実は今7個のサークルを掛け持ちしてるんです(笑)

－もし20万円あったら？

市大クーポンとして、地域のお店の人と提携して街コンを開催したいですね。

※街コンとは地域振興を目的とした大規模なコンパイベントのこと。一定のお金を払うことで、提携している店舗を回って飲食ができる。

－休日はどのように過ごしていますか？

バイトが入っていない日は、ネットという場所でサーフィンを楽しんでいます。

－座右の銘は？

広く深くですね。いろいろなことにかかわることが好きなんですよ。でもせっかく幅広くかかわっても広く浅くだったら面白くないし、もったいないと思うんですね。何かにかかわるのであれば、何事もしっかりと深くかかわることが大切だと思います。

－市大生に一言

こちらから告知しなくてもどんどん口コミで市大クーポンが広がっていって、市大生なら誰しもが当たり前のように市大クーポンを使ってもらえる、そんな存在になりたいと思っています。

Twitterで市大クーポンをぜひフォローしてください！
Twitterアカウント：、@ichidai_coupon

ブログもやっています。こちらもぜひ読んでください！
ブログURL:http://ameblo.jp/ichidai-coupon/

あと、クーポンを掲載してほしい店舗のリクエストも受け付けています！
リクエストはこちらのアドレスまで
ichidaicoupon@gmail.com

町田和紀 (Hijicho)

From Editor

始めたきっかけは趣味の食べ歩きからという言葉が特に印象的であった。趣味から実際にここまでの活動へと広げられたのは、何事にも全力で取り組む彼の行動力のおかげだろう。目標のあびこ、杉本町の制覇は一見すると困難な目標のように思えるが、1回生が中心のフレッシュで熱い彼らであれば、いつか達成し、市大クーポンは市大生にとってなくてはならない存在になることであろう。これから幅広く活躍するであろう彼らの活動に注目だ。

おもろい学生募集中

連載コーナー「おもろい学生おりまっせ！」は、大阪市立大学で活動している個性あふれる大学生を取り上げ、紹介していくコーナーです。「大阪市大に存在する興味深い学生の素顔に迫り、大学生同士の興味・関心を誘発させること」をコンセプトにしています。
Hijichoでは、この「おもがく」にふさわしい、個性あふれる市大生を募集しています。

○応募資格
大阪市立大学または大学院に在学中の学生の方
※自薦他薦は問いません。

○応募先
hijicho@gmail.com まで件名に『おもがく推薦』と明記し、必要事項 （推薦者の名前、所属先、連絡先と推薦理由、人物像、大学生活の中でどのようなことに取り組んできたのかまたは取り組もうとしているのか、何を成し遂げたのかなど ）を明記の上 ご連絡ください。
※応募していただいたすべての学生を取り上げるわけではありません。応募された人の中から厳選したうえで取材させていただきますのでご了承ください。取材を行う人が決定した際にはこちらから連絡させていただきます。

教育としての学力テスト結果公表

全国学力・学習状況調査、通称学力テストは、文部科学省によって毎年小学校六年生と中学校三年生を対象に実施されている。

『文部科学省HP：学習状況調査の概要』
(URL：http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/07032809.htm)

平成25年度の調査結果に関しては、市町村教育委員会が各学校ごとの結果を公表することのないようにと文部科学省で規定されていた。

『文部科学省HP：（参考資料1 全国学力・学習状況調査の結果公表の取扱いに関する…）』
(URL：http://goo.gl/usnEyz)

しかしながら、今年10月8日、大阪市教育委員会は学校管理規則を改正し、委員会が認めた小規模校・特別支援学校などを除く、全市立小中学校で学校別の調査結果を公表することを、非公表にした校長を処分の検討対象とすることで、事実上義務化した。

『大阪市HP：平成25年度「全国学力・学習状況調査」「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における学校別の調査結果の公表について』
(http://www.city.osaka.lg.jp/hodoshiryo/kyoiku/0000238600.html)

それに対して、一度ルールを逸脱していると指摘した文部科学省も、11月29日、**市町村教育委員会による学校名を明らかにした調査結果の公表も可能とする**として、市町村教育委員会による個々の校名を明らかにした結果の公表を認める考えを示した。

『文部科学省HP：平成26年度全国学力・学習状況調査の実施について（通知）』より引用
(URL：http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/1342021.htm)

何故、文部科学省は方針転換をしたのだろうか。文部科学省が今年7月に実施した学力テストの結果の公表に関するアンケート調査によると、都道府県教育委員会、都道府県知事を除く、市町村教育委員会・町村長・学校・保護者の半数以上の人が、**従来どおり、学校だけが公表できるようにし、教育委員会は公表できないようにする**のが適当だと考えている。

しかしながら、保護者のうち**教育委員会も公表できるようにする**のが適当と考える人は44.5%で、**教育委員会は公表できないようにする**の51.9%より幾らか少ないだけなので、結果公表の需要があるのも確かである。もしかしたら、大阪市では公表できるようにした方いいという人が多かったかもしれない。

『文部科学省HP：平成25年7月　全国学力・学習状況調査の結果公表の取扱いに関するアンケート結果』
(URL：http://goo.gl/2FJQ5U)

学校別に学力結果の公表を行うとなれば、様々な懸念があるだろう。 今回筆者が注目したのが、なぜ大阪市教育委員会は各学校と対話することによって公開を促すという選択をしなかったのだろうか、というところだ。

文部科学省は、市町村教育委員会に公開の判断を任せることで、各市町村の地域性・特性などを尊重する姿勢を示した。しかしながら、大阪市教育委員会は、学校ごとの自主的な判断を認めない意向を示している。さらに、ほぼ強制ともいえる方法で、各校長に結果の公表を促しているのである。

市教育委員会と学校には、協力しなければならない場面が、これからも多々出てくるのではないだろうか。それなのに、今回のような強引なことが積み重なれば、信頼関係に悪影響が出はしないかと気がかりである。もう一つ、気になっている点がある。今回の教育委員会のやり方が、果たして子どもあるいは彼らを導く周囲の大人の目にどう映ったかである。子どもたちは、教科書の中に書いてあることよりも、むしろ自分たちの生活の中、自分たちの手本となる大人たちの姿からもよく学ぶのではないか。今回の強引なやり方は、教育として子どもたちにどのようなメッセージを送ったのだろうか。

どちらも児童生徒のために力を尽くしていることには変わりないのであるから、その児童生徒のためにも、信頼関係のもとに協力する姿勢を見せてほしい。

2014年・市大のカルテット来る~新四者協執行部~

新たに市大の課外活動団体を引っ張っていってくれる新四者協執行部を紹介する。四者協とは文化系サークル連合・音楽系サークル協議会・体育会・応援団という4つの大きな課外活動団体を統合する四者連絡協議会の略称だ。大阪市立大学最大の学生団体であり、唯一大学への折衝権を持つ。より良い課外活動を送るために、不可欠な存在である。

2014年の四者協執行部の素顔と意気込みに迫った。

(なお、文化系サークル連合の委員長は1月4日現在で未定である。)

2014年応援団団長　森岡 晋平さん

(所属：経済学部3回・大阪市立大学応援団リーダー部)

–2014年どんな年にしていきたいですか？

第51代大阪市立大学応援団では「架け橋」というキャッチコピーを掲げています。これは渉内団体・渉外・職員さん・OBさん、地域の方ひいては市大生の架け橋になりたいという気持ちからです。団長として、自分の思いつきだけではなく、様々な方の意見を聞きつつ幅広い視野を持つようにしていきたいですね。団内の雰囲気づくりにも力を入れたいです。やはり上に立つ者によってその団体の性格って変わってくると思うので。

四者協執行部の一員としては、四者協には折衝権という大学に意見を言える権利があるので、それを上手く行使していきたいです。また四者協の構成団体の意見を吸い上げるような場を作っていきたいです。

–応援団に入団されたきっかけは？

元々高校野球をやっていました。ですが肩を壊してしまって、大学では野球はできないと思っていました。応援団なら多くのスポーツと関われるし、様々な人とも交流が持てると思い、入団を決めました。私が1回生だった当時の団長に憧れた部分も大きいです。入団してみると応援はとても奥が深いのだと感じ、その魅力に取り付かれました。入り込んで応援していると自分もチームの一員となっているように感じ、勝った時の喜びや負けた時の悔しさを毎回噛みしめます。実は今でも出身高校の野球部の応援団長もやらせて頂いているんですよ。(笑)

–これまでの市大生活の中で印象的だったことは？

応援団に入団していることもあって、よく体育会系の部活の応援に行かせていただくのですが、プレイヤーの方のかっこ良さに感動するんです！すごいなーって。スポーツをされている姿って本当に素敵です。

でも後日、授業中にそのプレイヤーの方を偶然見かけると、居眠りされていることがあって、そのギャップに驚きました。(笑)

–市大の好きなところ・こうなったらいいなと思うところは何ですか？

人とのつながりが近いところが市大の良さだと感じています。学生同士のつながりも勿論なのですが、様々な立場の方とも近い関係です。例えば職員さんとも気軽に話せて、学内を歩いていると、ボディータッチをして挨拶してくださることもあります。(笑)守衛さんも気さくな方でよく話が盛り上がります。

一方で体育会系クラブの学内での影響力の低さが気になります。個々のクラブではものすごく頑張っているのに、学内で盛り上がることはあまりない気がします。もっと市大全体で盛り上がれたらいいですよね！

–座右の銘は？

「努力したからといって成功するとは限らない。でも成功する人は努力していた」という言葉です。私自身にとてもよく当てはまる言葉で、何事にも全力で取り組もうとしていますが、うまくいかない時もあります。そんなときこの言葉に励まされています。1回も噛まずに言えたことはないんですけど。(笑)

2014年体育会幹事長　影林義之さん

(法学部2回・軟式野球部)

–体育会幹事長として2014年はどんな1年にしたいですか？

体育会は三商戦や府大戦、ボート祭の運営を行っているのですが、なかなか知名度が上がっていない気がするので、広報に力を入れたいです。特にボート祭の出廷数を上げたいですね。

–軟式野球部に入部されたきっかけは？
　中学は軟式野球部、高校は硬式野球部に所属していました。大学ではアルバイト等自分の時間を持ちたいと思い、軟式野球部を選びました。

–これまでの市大生活の中で一番印象的だったことはなんですか？
　癖の強い先生が多いことにはびっくりしました。授業を途中退席すると追いかけてくる教授や、話している内容がほとんど聞き取れない教授には衝撃を受けましたね。(笑)

–市大の好きなところ・こうなったらいいなと思うところは何ですか？
　駅から近いところとエアコンがついていることに感動しました。高校は駅から遠かったのでとても苦労していたのです。
　市大の中で好きな場所は学情ですね。空気が好きです。7階のサイレントルームがお気に入りです。
　もっと市大の知名度が上がってほしいですね。バイト先でも(市大を)知っている人が少ないので。

–好きなこと・特技は？
　最近はクロスバイクで遠くに行くことが好きです。走ってる時の爽快感と目的地に着いた時の達成感が気持ちいいです。

–座右の銘は？
　メリハリをつけることです。やるときはやるという姿勢が大事だと思います。

2014年音楽系サークル協議会委員長 正原恭伍さん (文・2)

(文学部国語国文学コース2回・Folk Song Club)

–音楽系サークル協議会委員長として2014年はどんな1年にしたいですか？
　音楽系サークル協議会 (以下、音サ) に限った話ではないのですが、その組織全体で何かを考えたり、やり遂げたりするということが少ないと感じています。もちろん全てを全員でやることは不可能ですが、やるべきことや進捗を共有していきたいと思います。もっと発信する場がほしいですね。音サ執行部の中でも情報の共有等を積極的にしていきたいです。
　四者協執行部としては府市大統合の問題が気になります。統合するとなれば課外活動団体がどうなるのかという不安があります。僕の世代でルールを明確化して大学へ提出できれば、その不安も小さくなりますし、来年や再来年の後輩達にとっても少しでも楽になりますよね。

–Folk Song Clubに入部されたきっかけは？
　音楽を聴くのが好きで、音楽がしたいと思っていました。高校で軽音楽部に入部しようと思っていたんですが、入学の前年に廃部になったらしく、入部できなかったんです。(笑)個人的に楽器を買って練習していたのですが、大学では軽音楽部に入ろうと決めていました。実際に新歓に行ったとき、先輩の雰囲気に惹かれたのと、音楽の方向性が自分と合っていたので、Folk Song Clubに入部しました。

–これまでの市大生活の中で一番印象的だったことはなんですか？
　毎年銀杏祭で次期音サ委員長がやる企画として「MONTOBA」というインディーズのバンドを呼ぶライブがあります。ですが予算がかなり少ない。(笑)なので自分の足でライブハウスを地道に回ってバンドを探し出しました。当日も終日つきっきりでしたが、企画が終わったときは本当に達成感でいっぱいでしたね。

–市大の好きなところ・こうなったらいいなと思うところは？
　猫との距離が近いところです。(キャンパスが)程よい狭さなので、すぐ見つけることができます。夜遅くに停めていた自転車を取りに行ったら、タイヤの近くに猫が寝ていて癒されたこともあります。
　常にキャンパス内のどこかを工事しているのをやめてほしいですね。(笑)どういう工事をしているのかということももっと学生に周知してほしいと思います。

–好きなこと・特技は何ですか？
　多分僕は本を読むスピードが人より速いです。高校生の頃よく本を読んでいて、特に小説が好きなので文学部では国語国文学コースを選びました。好きな作家はミステリー小説家の綾辻行人(あやつじゆきと)ですね。

–座右の銘を教えて下さい
　「急がば回れ」です。せかせかしている感じが好きじゃないので。落ち着いて物事に取り組んでいきたいです。

石原奈甫美 (Hijicho)

関連記事

□ 2013年四者協執行部に突撃～音サ・応援団編～ (http://hijicho.com/?p=11507)
■ 2013年四者協執行部に直撃～文サ・体育会～ (http://hijicho.com/?p=12088)
□ BOX総会2013開催 (http://hijicho.com/?p=13890)
■コラム日本vol.4 日本国憲法と大学の自治、そして市大 ～変革期の市大生～ (http://hijicho.com/?p=13960)
□市大存亡の危機～無関心ではいられない～ (http://hijicho.com/?p=12914)

自転車事故に用心を

平成25年12月3日 (火) 14時30分頃、本館地区の正門横の小門(守衛室横)で 本学学生同士の自転車衝突事故が起こった。小門から猛スピードで入ろうとする自転車と出ようとする自転車との正面衝突で、学生は共に転倒し怪我をするとともに、自転車も故障した。一つ間違えば大事故になっていた可能性は大きく、自転車の走行にあたっては、特にスピードには注意しなくてはならない。また、２人乗り等の危険行為はやめ、マナーや規則を守り安全走行を心掛けることが重要だ。

なお、現在小門は、歩行者のみが通行できるように措置がなされている。

自転車登録も忘れずに

自転車事故にも気をつけたいものだが、自転車登録も忘れないでほしい。平成25年12月2日付け、大学側から、未登録自転車に対する措置に関するお知らせが出されている。

杉本地区構内における各駐輪場及び建物周辺に登録証を貼り付けずに駐輪している自転車 (未登録自転車) が、以下の「大阪市立大学杉本地区構内自転車登録制実施要項」第10条に基づき措置が行われる。

大阪市立大学杉本地区構内自転車登録制実施要項
(未登録自転車に対する措置)

第10条　法人は、構内における各駐輪場及び建物周辺等に、登録証を貼り付けず駐輪している自転車及び登録期限の経過した自転車（以下、「未登録自転車」という。）について、次の措置を講じる。

(1) 未登録自転車に対し、荷札により当該自転車を登録する旨を通知し、通知後一週間を経過後も引き続き登録が確認できない場合は、移動させチェーン等で施錠すること。
(2) 前号による施錠を受けた場合、法人運営本部経営管理課において第3条に規定する登録申請手続きを行うことによりチェーンでの施錠を解除すること。
(3) 申請資格を有しない者の所有する未登録自転車については、本人からの申し出があれば、構内への駐輪に対し所定の手続きをしたうえで、チェーンでの施錠を解除することができる。
(4) チェーンでの施錠後、一週間を経過した未登録自転車は、一箇所に収集すること。
(5) 一箇所に収集し、一カ月間を経過した未登録自転車は、理事長名による告示を行ったうえで処分すること。
2　法人は同条における措置について、適宜実施することができる。
3　同条における措置を講じるにあたり、自転車に生じた損害について、法人は一切の責任を負わない。

なお、上記2点はポータルサイトに掲載されているので、確認してほしい。

事故や撤去によって自転車を失ってはもともこもない。ルールに則った上で、快適な自転車利用を心掛けたい。

橋本啓佑 (Hijicho)

大阪歴史探訪第二回　大阪城～陸軍用地から公園へ～

古代には難波宮がおかれ、江戸の世には天下の台所として栄え、明治以降には近代都市として発展してきた歴史あるモダン都市大阪。ここではそんな大阪の歴史に焦点を当て、知られざる大阪の魅力を発掘すべく、大阪の歴史にまつわるいろいろなものを紹介していこう。

今回は、今話題の３Dマッピングイルミネーションが行われている大阪城の近代の遺跡に注目する。

大阪城天守閣は、現在大阪といえば必ずと言っていいほど名前の挙がる代表的な観光名所の一つであり、周辺も公園や大阪城ホールが作られ、ひとつの大きな文化施設となっている。しかし、終戦後占領軍の接収解除まで約365年間、軍事施設あるいは政治の場として活躍し続けていたのである。そして近代においてはこれまでの城としての役目を終えて、陸軍用地としての道を歩むこととなった。実は大阪城にはそういった陸軍時代の史跡もいくつか残されている。

まず一つ目に紹介するのは、天守閣の近くにある古い西洋風の建物だ。大阪城に行かれた方は恐らく見たことがあるだろう。その正体は陸軍第四師団司令部庁舎の建物で、戦後は旧大阪市立博物館として使われていた。現在は使われていないが、建物はほぼ完全に残っており、正面玄関のアーチの下に入れるなどすぐ近くまで近づくことが可能である。この建物と今の天守閣はどちらも昭和6年 (1931) に完成しており、これらが併存している様子からは、明治期以降の軍事施設としての一面と同時に、寛文5年 (1665) 以来久々に天守がよみがえってくるようである。さらに、公園としても整備されつつあった大阪城の当時の姿を想像することもできよう。

二つ目は、中心部を離れて京橋口の方に移動すると、レンガ作りの建物がいくつか残っている。大きな方が化学分析場で、小さな方が守衛詰め所または便所とされる建物である。これらはかつて森ノ宮から現在の大阪ビジネスパークにかけての広大な敷地を有していた大阪砲兵工廠の一部である。

大阪砲兵工廠は明治初期から拡張し続け、東洋一の規模を誇るまでになり、軍需のみならず民需もこなす日本でも有数の工廠であったが、太平洋戦争の空襲で大部分が壊滅し、現在ではごく一部の姿をとどめるにすぎない。残る建物はいずれも現在は使われておらず、接近することも難しいが、近代の軍事施設としての大阪城の姿を今に伝えているといえる。

最後に、今回は大阪城の近代にまつわる場所を取り上げたが、これはまだ一部にすぎない。そして、これに限らず大阪城はまだまだ多くの魅力を備えているのである。冒頭でも少し触れたように現在大阪城では「大阪城3Dマッピングスーパーイルミネーション」が行われている。17:30からの開催なので、大迫力の光のショーを見る前に、大阪城の波乱に満ちた歴史を尋ねてみるのも面白いかもしれない。

アクセス
大阪環状線大阪城公園駅
JR東西線大阪城北詰駅
大阪市営地下鉄・京阪電鉄 天満橋駅
大阪市営地下鉄 谷町四丁目駅、大阪ビジネスパーク駅
大阪市営地下鉄・JR西日本 森ノ宮駅
大阪市営バス 大手前／馬場町停留所
大阪水上バス「アクアライナー」（遊覧船） 大阪城港

イベント
大阪城3Dマッピングスーパーイルミネーション
・開催時間
通常開催日：17:30～22:30 特定日：17:30～23:00
・チケット
通常開催日：一般1,600円 特定日：一般2,000円
・開催場所
大阪城西の丸庭園
・期間
2014年2月16日まで
詳細はこちら
(http://www.tenka1hikari.jp/index.html#rel=1)

古迫 肇 (Hijicho)